

昨年5月に発生した中国・四川大地震の被災地で医療支援活動をしているNGO「アジア医師連絡協議会」(AMDA、本部・岡山市)は、地震から丸1年を過ぎた5月19日に、四川省・都江堰市で日本と現地の宗教者との合同慰霊祭を営むことを決めた。4月中にも中国の宗教省や大病院の関係者らと協議し具体的な内容を決める。AMDAの菅波茂代表は「医療活動と同時に、亡くなった方々を弔うのは大切な支援。慰霊祭を通して被災地、被災者との絆を強

## AMDA、宗教者と合同慰霊祭へ

### 中国・四川大地震

めたい」と話している。

AMDAは、中国の医師免許を持つ多数の医師と看護師を成都市など被災地に派遣。約2カ月間の緊急支援期間に延べ約2300人に対して外科診察をしたほか、延べ約540人の心理カウンセリ

療活動拠点の四川中医薬大学付属病院の関係者らと協議を進めるが、日本からは真言宗や金光教など、現地からは道教などの宗教者が参加し、それぞれの方式で慰霊するという。

ングなどをした。その一方、「AMDA・医療と魂のプログラム」を展開し、慰霊活動も行った。

AMDAはインド洋大津波の際にも、被災地でヒンズー教やイスラム教の宗教者らとの合同慰霊祭を開いた。

今後、宗教省四川省事務所や医